

平成30年度一般入試（前期日程）における再発防止の強化策について

大阪大学

大阪大学は、入学者選抜における出題及び採点の誤り等を防止するための対策を、本年1月15日に設置した入試に係る問題再発防止対策検討委員会において鋭意検討中です。

本年2月25日（日）及び26日（月）に実施する平成30年度一般入試（前期日程）に向けた再発防止策として、以下のとおり、現時点で実施可能な新たな取組の導入やこれまでの取組の拡充に着手し、試験問題を多面的、重層的に点検する体制へと強化します。これにより、入学者選抜の適切かつ確実な実施に万全を期します。

取組 時期	これまでの取組	今回の再発防止の強化策 (詳細は別紙)
1. 試験実施前	問題作成・校正委員による複数回の点検	①【新規】従来の取組に加え問題作成・校正委員以外の <u>査読委員</u> による <u>緊急点検</u> の実施
2. 試験当日	問題作成・校正委員による問題解答	②【新規】従来の取組に加え問題作成・校正委員以外の <u>査読委員</u> による <u>試験問題モニター査読</u> の実施
3. 試験終了から合否判定までの間	答案採点委員による予備校等の解答速報の確認 (任意)	③【新規】 <u>本学学生</u> による <u>試験問題モニター調査</u> の実施と当該学生の意見の問題作成・校正委員へのフィードバックによる <u>次年度試験問題への活用</u> ④【新規】答案採点委員による採点時における <u>受験生の解答状況</u> （当初想定していない解答の出現等）を踏まえた <u>疑義等の確認</u> ⑤【拡充】答案採点委員による採点時における全科目での <u>本学の解答例と予備校等の解答速報との照合による疑義等の確認</u>
4. 合格発表後	4月中旬から5月末の間における「試験問題」、「解答例」又は「出題の意図」の希望者による閲覧	⑥【拡充】「試験問題」、「解答例」又は「出題の意図」の <u>本学ホームページでの公表</u>

再発防止の強化策の詳細

1. 試験実施前の強化策

- ① 問題作成・校正委員以外の(第一次)査読委員による緊急点検の実施【新規】
(具体策)

これまで実施してきた問題原案作成者を除く問題作成・校正委員による複数回の点検(※)と併せて、新たに問題作成・校正委員以外の教員(計41名)を入試委員会の下に(第一次)査読委員に指名し、試験問題の再点検を強化することにより、不適切な出題を事前に防止する。

なお、今回は入試直前の点検であるため、緊急点検としているが、次年度以降の実施方法等については、今後さらに検討する。

※ これまでは、問題作成・校正委員の中で、各問の原案を作成した者以外の委員による相互点検を実施していた。

2. 試験当日の強化策

- ② 問題作成・校正委員以外の(第二次)査読委員による試験問題モニター査読の実施【新規】
(具体策)

これまで実施してきた問題作成・校正委員による試験当日の問題解答と併せて、新たに問題作成・校正委員以外の教員(計25名)を入試委員会の下に(第二次)査読委員(原則として(第一次)査読委員と異なる者)に指名し、試験開始1時間前(予定)から試験問題を実際に解くことによる再点検を実施することにより、不適切な出題を試験時間内に早期発見することで影響を最小限に止める。

3. 試験終了から合否判定までの間の強化策

- ③ 本学学生による試験問題モニター調査の実施【新規】
(具体策)

試験終了から合否判定までの間に、入試委員会出題検証小委員会委員長が指名した本学学生(計30名)(1年次生を中心に1科目あたり複数の学生が入試時に受験した科目を担当。)が受験生に近い視点で実際に試験問題を解くことにより、問題に不明な点や不備等がないことを再点検する。

これにより、不適切な出題があっても採点時において対処できるようにすることで影響を最小限に止める。

併せて、当該学生から意見を聴取し、問題作成・校正委員にフィードバックすることにより、次年度以降の試験問題の作成に活用する。

試験問題モニター調査の結果や学生の意見は、入試課を通じて入試委員会出題検証小委員会に報告する。

なお、本取組については、今後、次年度以降の実施方法等をさらに検討する。

④ 答案採点委員による採点時における受験生の解答状況等を踏まえた疑義等の確認【新規】

(具体策)

採点時において、答案採点委員が当初想定していない解答が多数見受けられるなどの想定外の現象がないか等の点検を実施する。

これにより、本学の解答例に誤りや不適切な出題があっても採点時において対処できるようにすることで影響を最小限に止める。

⑤ 答案採点委員による採点時における本学の解答例と予備校等の解答速報との照合による疑義等の確認【拡充】

(具体策)

これまで科目ごとに任意に行われていた取組を拡充し、全科目において答案採点委員が本学の「解答例」又は「出題の意図」と予備校等の解答速報を照合する等の再点検を実施する。

これにより、本学の解答例に誤りや不適切な出題があっても採点時において対処できるようにすることで影響を最小限に止める。

4. 合格発表後の強化策

⑥ 「試験問題」、「解答例」又は「出題の意図」の本学ホームページでの公表

【拡充】

(具体策)

これまで実施してきた大学窓口での閲覧による希望者への開示の取組を拡充し、本学の「試験問題」、「解答例」又は「出題の意図」を、著作権処理が必要なものを除き、本学ホームページで速やかに公表する。

このことにより、合格発表後であっても試験問題等の情報提供の機会拡大を通じて万一誤り等があっても早期に発見しやすくすること、また、受験生や次年度以降の入学志願者が学習上の参考として活用できること等が期待できる。

(参 考)

○ 入試委員会出題検証小委員会における対応

以上の種々の取組のほか、平成30年度一般入試（前期日程）において、試験終了以降に外部等から本学の入試問題に関し誤りや疑義等の指摘があった場合は、当該科目の問題作成・校正委員等のみでなく、全学委員会である入試委員会の下に常設した出題検証小委員会において、速やかに情報を共有・集約し、迅速に検証を行う。

【各委員の役割について】

問題作成・校正委員

入試委員会の下で、試験問題の作成及び校正を行う。答案採点委員を兼務する。

問題原案作成者

問題作成・校正委員の中で、試験問題の各問の原案を分担して作成する。

答案採点委員

入試委員会の下で、試験問題の採点を行う。

(第1次)査読委員

入試委員会の下で、試験実施前の緊急点検を行う。試験問題の作成に関わっていない教員が担当し、試験問題に疑義等が生じた場合は、同委員会委員長の下で問題作成・校正委員と協議を行う。一部の委員は答案採点委員を兼務する。

(第2次)査読委員

入試委員会の下で、試験当日の試験問題モニター査読を行う。試験問題の作成に関わっていない教員が担当し、試験問題に疑義等が生じた場合は、同委員会委員長の下で問題作成・校正委員と協議を行う。原則として(第1次)査読委員と異なる者が担当する。

(大阪大学入試における再発防止策の策定・実施の枠組み)

○ 大阪大学入試に係る問題再発防止対策検討委員会

問題作成、試験実施、試験終了後の各段階における点検体制の検証、他大学等の事例の調査などを踏まえ、改善に必要な対策を策定し、実行可能なものから速やかに実行する。

○ 入試委員会出題検証小委員会

試験終了から合格者判定までの間に問題及び解答を改めて点検するとともに、外部等から出題に関する問題点・疑義の指摘等があった場合、速やかに情報を共有・集約し迅速に検証を実施する。